



長野高校  
1 学年  
SGH 通信

# 十世 知るべきや

青のファイルにまとめましょう

第 12 号

2017 年 7 月 27 日 (木)

## インタビュー実践 振り返り

今回の「インタビュー実践」は、今年から始めた企画です。4月から学んできたスキルを発揮できる場を提供しました。成果を発揮できましたか？今回の流れを振り返ってみましょう。

### 7月13日(木) LHR

講師への質問をグループで考えました。4月から行っているおなじみ**ブレスト**。この段階までは、「どのグループでもできる」と思っている人も多いのでは？実際、すごいことですよ。



### 7月15日(土)土セミ

Googleでの質問シート作りで、質問の意図・予測をしました。質問の意図を考えた上で、より質の高い問いを探していく作業でした。パソコンでの作業はトラブルがつきもの。とはいえ、特に1時間目の人たち、思ったようにいかず、ごめんなさい。なんと、このパソコン室、夏休み明けに何かが起こる！？



### 7月21日(金) ランチミーティング

今回のインタビュー実践、ファシリテーターをSGH係・SGHスタッフが勤めました。SGHスタッフにとっては、初ファシリテーター。そのための打合せは、貴重な昼休みに30分かかりました。※箸は止めないものの真剣に脳内シミュレーションしてるようでした。(※ランチミーティングにおいては正しい行動です。)



### 7月24日(前日)

どの質問をするか？意思決定のための**ディスカッション**は、いよいよ収束フェーズに向かいます。模造紙に質問を清書して、リハーサルを行いました。担当の先生からの話によると、どのクラスもSGH係がしっかり進めてくれた、とのこと。頼もしかったです。質問者、記録者、ファシリテーター・・・それぞれの役割とも、インタビュー実践当日に向けて準備万端、でしたよね。

7月25日 (インタビュー実践当日)



SHIP から相田先生 机の配置がインタビュー形式



おなじみ原校長先生 長野県の教育を語る



おなじみ小川教頭先生 歴史への視点を語る



子ども支援コーディネーター 中城先生



↑ 大宮透先生 ディスカッション講座でもお世話に

健康安全な食の創造 サンクゼール 久世先生 →

教室によって、机の配置  
や雰囲気がちがいますね



農業による地域作り 山室先生



想定分野・キーワード	肩書・氏名		団体名
1 農業とコミュニティ	専務理事兼事務局長	山室 秀俊	NPO法人よっころしよ
2 若者が活躍する地域づくり	事務局長	大宮 透	一般社団法人小布施まちイノベーションHUB
3 子ども支援と知育ネットワーク作り	子ども支援コーディネーター	中城 隼人	長野県NPOセンター
4 心理と統計のはなし	厩代高校SSH担当職員	大石 超	厩代高校
5 社会課題に対する歴史的な視点	長野高校教頭	小川 幸司	長野高校
6 長野の教育 現状と課題	長野高校校長	原 良通	長野高校
7 行政とまちづくり	長野県議会事務局	相田 貞晃	SHIP(信州イノベーションプロジェクト)
8 国際協力・持続可能な開発目標	JICA長野デスク 国際協力推進員	榎本 智恵子	JICA駒ヶ根
9 自然エネルギー（エネルギーの地産地消）	事務局コーディネーター	小田切 奈々子	自然エネルギー信州ネット事務局
10 健康安全な食の創造	代表取締役専務	久世 良太	株式会社サンクゼール
11 高齢化社会と地域医療	事務次長	杉原 大輔	長野中央病院
12 長野の生物多様性と生態系	准教授	田中 健太	筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所
13 「障害」を持つ人との共生	自立支援部門マネージャー	小山 勝章	社会福祉法人 森と木
14 インバウンド（外国人受け入れ）の今	オーナー	山上 万里奈	ゲストハウス 蔵

講師からのコメント（抜粋） **講師の皆さん、ありがとうございました。**

「話したことを踏まえた上で、質問をその場で練り直している姿が印象的だった。」

「とても熱心に質問する生徒が何人もいて、また自分の意見を論理立てて言えることが素晴らしかった。」

「もう少し座談会みたいな雰囲気できると、活発になってよかった。」

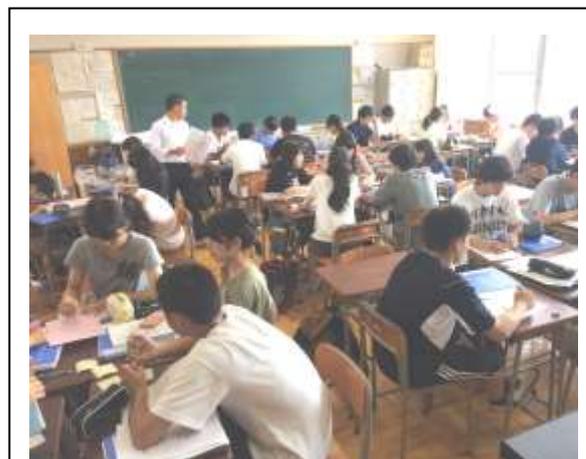
「2回目の自由にインタビューするスタイルでは、急に消極的になってしまった。まずは教室の机の並べ方や、インタビューする人の位置など、もっとインタビューしやすい環境を作ってあげておくことも必要かなと感じました。」（ファシリテーター注目）

「問題意識の高い生徒さんの中には、講師の答えを受けてさらに質問を重ねて、問題の本質に迫られている所は素晴らしいと思いました。」

「予想以上に優れた質問が多面的、多角的に続出して、濃密な講座となった。・・長野高生はきちんと『問い』を持つことができると確信した。」

9月からの課題研究に向けて、いいスタートがきれましたね。夏休みは、新聞や課題図書を読みながら、また日常生活の中で自分の研究テーマを何にしようか意識し続けて下さい。

7月25日 午後の部（まとめ） 主体的に話せている班が多かったですね。

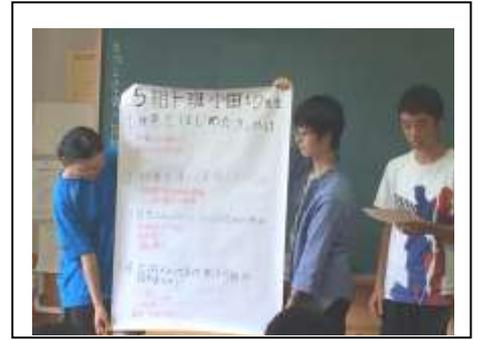


7月26日（報告会）発表もすごいが、質疑応答もすごい！

自然エネルギー講座と生態系講座の話を聞いた生徒が、両方の講座で聞いた話について発表したところ、

「**長野県**の持つ**自然エネルギーの可能性を考え、ダムを造るべきと考えるのか。それとも、下流域の草原・森などの自然環境を考えて、ダムは造るべきではないのか**」という質問がでたそうです。

その生徒は、「**下流域の環境は河川の氾濫によってもたらされていたもの。それがなくなった今となつては、ダムを造った方がいいと考える。もはや、自然環境は減少を食い止めるしかない。**」と答えていたそうです。自分の立場を明らかにした上で、クラッシュ点を見つけた質問者、政治家なら明言を避けるような問題にも、説得力のある現状分析に基づいた答え+背景にある考え方を提示した回答者。ともにすごい！！大人でもなかなかできないやりとりです。



Q「僕は、環境分野の話を聞いてきたのですが、生態系を考えたときグローバル化はよくないと考えるようになったのですが、グローバル化のメリットは何ですか？」

A 「シリア内戦のように、（グローバル化により）情報が入ってこなければ、他国に住む我々が見つけられない問題もある。」

それぞれが聞いた話に基づいて、一つの issue（問題）に別の価値を見出しあっていた。このやりとりにゾクゾクした。

今回のインタビュー実践では、インタビューはもちろん、その場で模造紙に書き込む書記も大変だったと思います。話の中でどこを切り取るのか？しかも講師本人とオーディエンスを前にして。要約する力に加えて、講師の話の中の「パンチワード」（話し手が印象に残したいキーワード）を瞬時に見つける必要があるからです。話し手と聞き手をつなぐ重要な役割でした。

夏休みが開けると英語プロジェクトのプレゼン大会（9月30日）が行われます。自分の好きなモノを自由に語れる場です。カッコいい「パンチワード」を用意しておいて下さい。プレゼンでは、今回書記が行った役割を果たすのが、みんなが自分で作るスライドになります。良い準備をして下さい。

※インタビュー実践で講師の先生がお話してくれたことは貴重な1次情報です。ただし、軽率に発信すると、誤解・曲解を招き、講師にご迷惑がかかることとなります。インタビューで得た情報は、貴重な分だけ、その情報管理も必要になることを意識しておきましょう。